

1 要旨

所有権理論においては、理論が関係特種的投資に過度に依存していること、再交渉が常に事後的に効率的に行われていることに対して批判がなされた。それを受けて近年 Hart(2009) において新しい所有権理論が提出された。Hart(2009) では投資は捨象されており、再交渉によるコストをいかに減らすかで所有権構造が決まるモデルを構築している。Hart(2009) は買い手と売り手の 2 人対称交渉力ゲームだったが、企業の内部組織における多数の非対称なプレイヤーの相互作用を見るモデルを考えるために、本稿では、人数と交渉力を一般化し N 人非対称交渉力ゲームを扱って分析を行う。その結果 Hart(2009) で示された命題は人数に関して頑健であることが示される。また、交渉力をコントロールすることで余剰を改善できることが示される。